



学園創立50周年記念事業報告

奈良県支部と高齢卒期で目標突破 「必ず一口」運動・若年層の奮起に期待

募金実績中盤集計結果

昨年末発行の会報第五十五号報告以降、平成六年十一月から本年四月まで六ヵ月間の成績は、別記「名簿」のとおりで、五〇四名（うち五三名は追加）の会員から、八百八拾万七千円の応募が寄せられ、併せて一、〇三九名（実人員）、壹千九百万円となりました。

支部並びに卒期別内訳は、別表一のとおりであります。

募金活動の原動力と頼る大型支部の動静は、以前として苦戦続行。これをしり目に、コンパクトに纏まる奈良県支部の目標突破は、これからの運動に好影響を与え、終盤、大躍進の起爆剤として期待がかかります。

卒期別では、青春の思いを、そのまま

学園に寄せる高齢組の勢いが段突で、続々、目標を突破、出足の遅い若年層の奮起を促しながら、共に、募金趣意の成果勝ち取りを目指した構えが瞭然として参りました。

今回の記念事業は、学園の、半世紀にわたる軌跡を慶賀するとともに、不滅の道を願望する同窓生の熱意発起であることから、会員、全員の力で成し遂げてこそ、真価が問われるとの認識であります。

「必ず一口 もう一口」の結果を、強く要請、推進する所以でもあります。

未だ応募されていない会員は、「必ず一口」そして「もう一口」、既に応募の皆様は、「もう一口」の愛情を、学園の発展にお寄せください。

今春学園を卒業した新会員の皆様にも、よろしくお願い申し上げます。

募金の終期まであと七ヵ月、事業の中心である新図書館は、既に竣工して内部仕上げを待つばかりです。これからが、

同窓会会報

第56号

平成7年6月10日

発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965

鯉淵学園同窓会
TEL029-259-2811
振替口座 字部宮3-1632番

印刷所
印刷 双葉印

記念事業寄付応募者名簿

（平成六年十一月～七年四月実績・五〇四名 二団体）

私たちの正念場、見事、入魂を果して欣然とした姿にと、気が採める毎日です。

最後に、何方様も、新生「農業・生活専門学校「鯉淵学園」」の発展のために、「必ず一口 もう一口」のお力添えを、お願い申し上げます。

※名簿説明「敬称省略」

分類方法は、応募口数及び金額別とす。○数字は卒期、括弧は通信同。

追加寄付は、実績口数で分類し末尾括弧で累計口数を表示する。

例・九口寄付済者が一口追加の場合

◆一口 一万円

（〇〇県）①鯉淵太郎（累計十口）

また、報告期間内、二回以上追加の場合は、合計口数で分類、表示する。

間違い、不審の点は、必ずご連絡ください。調査のうえ修正いたします。

- ◆三〇口 三〇万円 (一名)
- (茨城県) ⑤ 砂田 義雄
- ◆二〇口 一〇万円 (五名・一団体)
- (茨城県) ⑦ 坪野 敏美
- (千葉県) ⑨ 山崎 修
- (福井県) ⑨ 仙城 律
- (三重県) ⑦ 山中 種郎
- (沖縄県) ⑬ 新垣 盛光
- (団体) 第二十三期生会 九州大会出席者一同
- ◆八口 八万円 (一名) (山梨県) ⑤ 小林 正巳 (累計 十口)
- ◆七口 七万円 (二名) (京都府) ⑫ 正木 明 (累計 十口)
- ◆五口 五万円 (二五名) (北海道) ⑬ 石橋 孝一 (岩手県) ⑨ 高橋 利清 (茨城県) ② 萩原 耕 ④ 関 正治 ⑦ 中村 信夫 ⑨ 吉岡 一男 ⑨ 大島 武男 (栃木県) ① 湯沢 隆夫 ⑬ 大川 鐘一 (群馬県) ⑨ 富永 治 (東京都) ⑨ 桜井 日吉 (富山県) ⑤ 中村 善一 ⑨ 白土 忠男 (山梨県) ② 山本 美喜子 (石川県) ⑤ 大本 貞成 (山梨県) ⑧ 中込 武

⑤ 横田 茂満佐

(宮崎県)

◆七千円(一名)

(福岡県)

③ 上尾 由憲

⑩ 山田 洋一

(山口県)

② 段田 恭範

③ 佐野 治人

⑬ 長友 光幸

◆五千円(五名)

(佐賀県)

(鹿児島県)

(北海道)

⑬ 中田 浩

(2) 本野 陽一

④ 折田 豊

(累計)

⑬ 中田 浩

(2) 東島 定美

⑤ 野上 イク子

(累計)

二五、〇〇〇円

(3) 田久保 美彦

(2) 有留 忠男

(宮城県)

⑦ 千葉 直喜

(累計 二〇)

(沖繩県)

(茨城県)

⑦ 吉澤 秀子

(4) 久原 貞男

⑬ 大城 昇

(累計 二〇)

⑦ 吉澤 秀子

(長野県)

(累計 二〇)

(静岡県)

④ 田代 みよ子

⑬ 糸山 興一郎

⑬ 島袋 清子

(奈良県)

(5) 皿井 昇

④ 吉本 京子

(累計 三〇)

(熊本県)

④ 田代 みよ子

(熊本県)

② 奥村 心度

(累計 二〇)

(熊本県)

③ 鹿江 琢史

② 池間 景清

(累計 一口)

④ 北野 典爾

⑩ 山城 政美

(累計 一口)

(累計 二〇)

⑩ 儀間 昌清

(終身会費に修正)

(大分県)

⑩ 大田 治雄

(宮城県)

(4) 二階堂 昭昌

④ 甲斐 次男

⑦ 安里 みどり

(宮城県)

(4) 二階堂 昭昌

② 広瀬 真一

⑨ 東長田 隆

(宮城県)

(4) 二階堂 昭昌

今年も学生募集のご協力を

教務部長 安藤 義道

一 学園の近況

五月晴れにさそわれるように、グラウンドでは学生たちが、六月開催の東関東スポーツ大会に向けて野球・サッカーの練習に余念がありません。

学園の所帯は、この四月には、五十年の歴史上もっとも多い三九二名に達しました。一〜三年の三四三名と普及専攻科四六名に加え、今年からは研修科も発足して三名の入学があり、合わせて三九二

名に達した次第です。

今年には四年制元年ですが、三年後の平成十年には四八〇名になる予定です。

二 新入生の入学状況

このように、今学園は活気に充ちあふれています。この様子はマスコミからも注目され、五月八日のNHKテレビ「おはよう日本」の中継はみられた方も多しと思えます。当日はテレビ中継の後に、ラジオレポートもありました。対応も何かと大変でしたが、マスコミが取り上げてくれるほど魅力ある学園づくりにこれからも邁進して行きたいと思えます。

四年制元年の今年の応募は一七四名ありました。内訳は農業経営科科学科一四二名、生活栄養科科学科三名です。最終的には一一九名が入学し、内訳は農業経営科科学科九六名、生活栄養科科学科二三名です。

このうち、推薦入学者は農業経営科科学科が二四名、生活栄養科科学科が八名です。今年もご推薦を！

こうした数字だけをみると、前途洋々ですが、決して実情はそうとは申せません。

特に、生活栄養科科学科は定員の半分強という結果でした。四年制にする時、管理栄養士の受験資格が与えられることから、行政指導上強く定員確保の念を押されました。したがって、今回定員割れの状況報告提出が余儀なくされた経緯があります。

何とか、従来の改良普及員資格に加え

て、国家資格の管理栄養士資格もえられたことを卒業生の皆さんにはご理解頂きたいと思えます。世の中の趨勢は栄養士から管理栄養士へと向っている事をご理解頂き、多くの有為な人材を送って頂ければ幸いです。

農業経営科科学科も従来の園芸コースを作物・園芸コース・畜産コースを畜産・加工コースとし、新たに経営・流通コースももうけられました。こちらの方も合わせて多くの有為な人材を送って頂きたいと念願しております。

四 平成八年度学生募集要項

1. 募集対象と募集人員

① 募集対象
高等学校を卒業した者(見込を含む)、または学校教育法施行規則第七七条の五に規定する者

② 募集人員

農業経営科科学科(四年制)八〇名
生活栄養科科学科(四年制)四〇名

2. 出願手続

出願者は下記書類に選考科を添えて鯉淵学園事務部に提出すること。

① 入学願書
② 課題による小論文
③ 健康診断書(平成八年三月卒業予定の者は在学中の健康診断書で代替できる。)

④ 高等学校の調査書(各科目の評定、学習成績概評、成績段階別人数、所属する科(学年)の総学生数、

行動および性格の記録等を明確に記入すること。

⑤ 現住地の市町村長または農業協同組合長などより、家庭の事情や本人の将来の希望などを含めて推薦を得たものはその推薦書

⑥ 推薦入学に関しては、学校長の推薦書

⑦ 選考料 二九、〇〇〇円

(郵便為替にして入学願書に同封のこと)

3. 願書受付期間

推薦入学

平成七年十月十一日(水)

～七年十月三十一日(火)

一般入学

一次募集

平成七年十一月二十日(月)

～八年二月十五日(木)

二次募集

平成八年三月一日(金)

～八年三月十九日(火)

(当日の消印のあるものは有効)

4. 選考

書類選考による。

5. 合格発表

推薦入学

平成七年十一月十七日(金)

に発表

高等学校長及び本人宛文書で通知する。

一般入学

一次募集

平成八年二月二十七日(火)

に発表

二次募集

平成八年三月二十七日(水)

に発表

同時に本人宛文書で通知する。

6. 入学手続

合格通知を受けたものは、十日以内に所定の入学手続きを完了すること。

7. 入学式

平成八年四月十日(水)

諸経費

1. 納付金

農業経営科

入学金 二五〇、〇〇〇円 (入学時)

授業料 四九〇、〇〇〇円 (年額)

寮施設維持費 一一〇、〇〇〇円 (年額)

生活栄養科

入学金 二五〇、〇〇〇円 (入学時)

授業料 五一〇、〇〇〇円 (年額)

寮施設維持費 一一〇、〇〇〇円 (年額)

その他の経費

食費 二〇、〇〇〇円 (月額)程度

研究旅行積立金 二五、〇〇〇円 (年額)

奨学金貸与制度

学費支弁困難な者は、奨学金を利

用することができる。

鯉淵学園奨学金

月額 二〇、〇〇〇円

全国農協中央会農協職員養成奨学金

月額 二〇、〇〇〇円

日本育英会奨学金

月額 五三、〇〇〇円

なお、就農希望の者は、次の奨学金を利用することができる。

備考

① いったん提出した入学関係書類や既納の授業料その他の納付金は、いかなる理由があっても返還しない。

② 学園要覧・願書など所定用紙の請求は、鯉淵学園事務部または農民教育協会に問いあわせること。

五 優先入学要項

1. 推薦入学の人員

農業経営科 約十名

生活栄養科 約五名

2. 出願受付および選考

(1) 時期

十月十一日(水)

(2) 必要書類

① 本学教職員ならびに同窓会関係者の推薦書

② 本学園の学生募集要項に記載の通常の出願書類

(3) 選考

書類および小論文について選考

3. 合格通知

十一月十七日(金)に本人あてに通知する。

4. 入学手続

合格通知を受けた者は、十日以内に所定の手続きを完了すること。

5. 推薦入学者としての要件

(1) 平成八年三月高等学校卒業見込みおよびその前年度卒業者

(2) 人物が優秀で本学教職員ならびに同窓会関係者が推薦する者

(3) 高等学校第三学年一学期までの成績評定平均値が三〇以上の者

(4) 入学を希望する次の各科において、その項目のいずれかを目指し、その条件と資質を備えた人物

1) 農業経営科

① 農業およびその関連産業の従事者

② 農業の指導者あるいは技術者

③ 国語および生物に関する素養をもち、自然環境や農業分野での社会活動を志す人物

元気な新入生(一一九名)を迎え

テレビ生中継、新図書館開館、
そして五〇周年記念式典へ

四年制移行第一回の新入生一一九名を迎えて学園は活気づいています。なかには「一年生が元気づける」と当惑きみの上級生もいるくらいです。この雰囲気は勉強や実習への意欲として定着させるべく学園スタッフも忙しい毎日を追われています。

五月八日朝のNHK「おはよう日本」をご覧いただけただけでしょうか。NHK水戸放送局から学園の田植え風景を生中継したいとの電話が入ったのが四月十八日。大型連休明けの早朝中継ということもあって準備も大変でした。農場担当の先生方には連休返上で田植え準備をお願いし、天気だけが心配という状態で当日の朝を迎えました。朝六時という学生たちには早すぎる集合時間でしたが、一五〇名くらいが参加してくれて、にぎやかに本番スタートとなりました。四分半という中継時間はあっという間でした。あとでビデオを見ると自然いっばいの学園風景と元気な学生たちの雰囲気がそれなりに伝わっていたようで、ほっとしました。

五月二十四日は、新図書館の開館式でした。晴天に恵まれ、新緑のなかで新図書館は輝いていました。夜は従来どおり学生図書委員による自主開館方式です。開館式の夜には新図書館前に自転車がいっぱいとなり、使い初めを楽しむ学生の姿が大勢みられました。

十一月の五〇周年記念行事の準備も着々と進行しています。十一月四日の記念式典に先だって、十一月三日には記念講演会を計画しております(同窓会総会前の午前中開催の予定です)。講師には山口県の有限会社船方総合農場の坂本多巨氏(朝日農業賞受賞)をお願いすることも決まりました。同窓会の皆さま方も多数ご来聴ください。

追伸：NHKテレビ中継と統って放送されたラジオでの学園リポートを一本に編集したビデオを作成しました(十分、VHS)。ご希望の方は学園事務部にご連絡ください。送料ごみで二、〇〇〇円程度の実費でお頒けできると思います。(学園・企画渉外係 中島紀一)

学園創立50周年 寄付応募者数及び金額集計表

鯉淵学園同窓会

平成7年4月30日現在

支部名	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 率比 (%)	支部名	目標金額 (万円)	寄付応募実績		達成率 率比 (%)
		人数	金額(円)				人数	金額(円)	
北海道	253	37	575,000	22.73	京都府	82	20	430,000	52.44
青森県	48	16	290,000	60.42	大阪府	45	14	260,000	57.78
岩手県	156	42	660,500	42.34	兵庫県	113	23	500,000	44.25
宮城県	80	15	195,000	24.38	奈良県	12	11	180,000	150.00
秋田県	84	21	270,000	32.14	和歌山県	31	7	90,000	29.03
山形県	186	21	300,000	16.13	小計	372	83	1,810,000	48.66
福島県	197	26	340,000	17.26	鳥取県	57	9	160,000	28.07
小計	1,004	178	2,630,500	26.20	島根県	147	13	290,000	19.73
茨城県	718	158	3,485,000	48.54	岡山県	66	10	120,000	18.18
栃木県	182	44	764,000	41.98	広島県	84	20	305,000	36.31
群馬県	101	31	670,000	66.34	山口県	73	25	387,000	53.01
埼玉県	133	35	729,340	54.84	小計	427	77	1,262,000	29.56
千葉県	148	33	620,000	41.89	徳島県	23	5	210,000	91.30
東京都	96	29	700,000	72.92	香川県	29	14	170,000	58.62
神奈川県	76	23	370,000	48.68	愛媛県	43	16	250,000	58.14
小計	1,454	353	7,338,340	50.47	高知県	39	8	117,000	30.00
新潟県	237	42	520,000	21.94	小計	134	43	747,000	55.75
富山県	85	15	410,000	48.24	福井県	47	9	150,000	31.91
石川県	47	10	150,000	31.91	佐賀県	65	14	320,000	49.23
福井県	161	20	365,000	22.67	長崎県	41	7	55,000	13.41
小計	530	87	1,445,000	27.26	熊本県	78	24	320,000	41.03
山梨県	27	5	200,000	74.07	大分県	31	8	230,000	74.19
長野県	261	46	669,340	25.65	宮崎県	104	16	210,000	20.19
岐阜県	46	17	260,000	56.52	鹿児島県	91	20	350,000	38.46
静岡県	80	15	205,000	25.63	沖縄県	123	23	460,000	37.40
愛知県	85	14	220,000	25.88	小計	580	121	2,095,000	36.12
小計	499	97	1,554,340	31.15	その他	(2)	120,000		
三重県	37	5	270,000	72.97	小計	5,000	1,039	19,002,180	38.00
滋賀県	52	3	80,000	15.38					

鯉淵学園五〇周年記念事業

新図書館完成！

学園に五〇周年記念のシンボルとなる建築物、新図書館が誕生した。

場所は教育棟の南側。面積六一五㎡。平成七年三月三十一日の事である。

木造二階建ての閑雅な姿。

木造ならではの温かきを感じさせ、鯉淵学園のキャンパスによく調和している。

内部は、間仕切りがなく、広々とした館内、吹きぬけの書庫。東南の窓側には四人掛けの丸テーブルが並び、外にはテラス、芝が配され、正門右側にあったモチの木をはじめドウダンの古木など五〇年の歴史を背負った木々も移植された。

きっとこれからの新図書館を見守ってくれることと思う。この様にして生まれた新図書館は、諸兄諸姉から寄せられたつある郷学の思いと学園職員と学生の協力が実を結んだものである。

後は、期待の後輩達が日々魂を入れていってくれる事であらう。

五月十一日の環境美化作業以降、前記の通り学生と職員の手により、図書移動や建物周囲の整備が進められて、十一月の記念式典での完成披露に向け内容を充実させるべく頑張っている。

つきましては、同窓会の皆様にも何かと、御力添え頂く事も生じてくる由。

御協力のほどよろしく
お願い致します。



元校長 藤人 圭 (一六六)

事務局 工藤

卒業生別内訳

目標金額は、会員数に対する
按分調整額である。前表も同じ。

平成7年4月30日現在

卒 期	目標金額 (万円)	寄 付 応 募 実 績		達 成 率 金 額 比 (%)	卒 期	目標金額 (万円)	寄 付 応 募 実 績		達 成 率 金 額 比 (%)
		人 数	金 額 (円)				人 数	金 額 (円)	
1	60	23	430,000	71.67	31	84	9	180,000	21.43
2	100	47	870,000	87.00	32	103	11	220,000	21.36
3	103	44	760,000	73.79	33	118	9	119,340	10.11
4	94	57	1,380,000	146.81	34	111	9	110,000	9.91
5	67	36	1,200,000	179.10	35	110	7	100,000	9.09
6	31	17	430,000	138.71	36	111	8	100,000	9.01
7	76	42	1,075,000	141.45	37	86	4	45,000	5.23
8	81	24	480,000	59.26	38	79	4	40,000	5.06
9	105	47	1,550,000	147.62	39	76	5	50,000	6.58
10	97	36	660,000	68.04	40	63	5	60,000	9.52
小 計	814	373	8,835,000	108.54	小 計	941	71	1,024,340	10.89
11	72	32	800,000	111.11	41	64	2	30,000	4.69
12	54	23	420,000	77.78	42	64	2	20,000	3.13
13	83	30	492,500	59.34	43	92	15	174,340	18.95
14	84	25	505,000	60.12	44	88	10	100,000	11.36
15	82	23	385,000	46.95	45	61	4	40,000	6.56
16	65	17	280,000	43.08	46	71	13	150,000	21.13
17	60	17	310,000	51.67	47	59	4	40,000	6.78
18	51	15	300,000	58.82	48	(32)	7	90,000	28.13
19	86	28	540,000	62.79	小 計	499	57	644,340	12.91
20	81	25	390,000	48.15	通 信				
小 計	718	235	4,422,500	61.59	1	169	14	180,000	10.65
21	81	21	320,000	39.51	2	207	19	210,000	10.14
22	120	24	297,000	24.75	3	253	18	205,000	8.10
23	147	40	730,000	49.66	4	180	15	160,000	8.89
24	137	37	465,000	33.94	5	106	6	60,000	5.66
25	151	36	430,000	28.48	小 計	915	72	815,000	8.91
26	127	15	165,000	12.99	賛助会員	12	6	90,000	75.00
27	102	22	370,000	36.27	合 計	5,000	1,039	19,002,180	38.00
28	80	6	54,000	6.75					
29	75	10	180,000	24.00					
30	81	14	160,000	19.76					
小 計	1,101	225	3,171,000	28.80					

平成六・七年度会費納入のお願い 財政確立に一層の理解と協力を

平成五年十月開始の平成六・七年度会計は、本年九月をもって終期を迎え、決算の運びとなります。

平成五年十一月の第二十一回大会では、健全財政の確立が決議され、その基盤である会費収入の確保、啓発に全力を注いで参りましたが、前期同様の伸び悩みの結果、事業執行上著しい障害を来し、大幅後退の止むを得ない情勢であります。

四月末現在の会費納入状況は、年度会費五六九名、終身会費二二〇名に、前期以前の終身会費納入者七二四名を併せても、一、五二三名と振るわず、会員対比二九%の成績です。

前回報告との比較では、四%の増伸となりますが、平成六・七年度予算に計上した二、〇〇〇名には及ばず、その差、四八七名分の会費、金額にして壹百四拾六万円がなお未済の現況であります。

ここで、各位の、一層のご理解と、ご協力を賜り、大会決議による事業の完全実施及び、健全財政の確立を図りたいと思っております。

六・七年度会費未納の方に、是非、三、〇〇〇円のご送金を、お願い申し上げます。

別記、会費納入者名簿は、平成六年十一月から本年四月期の実績であります。お礼と領収書代わりの報告です。

終身名簿の中で、納入金額表示の場合は、終身会費納入区分表と照合のうえ、差額をご送金ください。

また、年度会費では、残額を仮受管理し、次年度会費として充当の考えです。間違い又は、ご不審の点は、必ずご連絡ください。名簿の〇数字は卒期、括弧同は、通信課程卒期です。

終身会費納入区分表 (平成7年4月から適用)

卒業期別	卒業年月別	金額(円)
1期～14期	昭21. 3 ～ 34. 3	22,500
15期～19期	昭35. 3 ～ 39. 3	25,000
20期～24期 通1～通4	昭40. 3 ～ 44. 3	27,500
25期～29期 通5	昭45. 3 ～ 50. 3	30,000
30期～34期	昭51. 3 ～ 55. 3	32,500
35期～39期	昭56. 3 ～ 60. 3	35,000
40期～44期	昭61. 3 ～ 平2. 3	37,500
45期～49期	平3. 3 ～ 7. 3	40,000

◎終身会費納入者名簿

(平成六年十一月～七年四月実績・七〇名)

- (北海道・四名) ⑤ 山田 明人
- ⑥ 佐相 正敏
- ⑦ 菅原 俊和
- ⑧ 関 武志
- (青森・三名) ⑨ 中村 利美
- ⑩ 松坂 郁夫
- ⑪ 池田 哲
- (岩手・五名) ⑫ 鷹 背 武
- ⑬ 久慈 宗悦
- ⑭ 越場 典茂
- ⑮ 越場 典茂
- (宮城・二名) ⑯ 山 富久士
- ⑰ 庄司 国雄
- (秋田・一名) ⑱ 二階堂 昭昌
- (山形・一名) ⑲ 藤原 雅記
- (福島・一名) ⑳ 小松原 多恵子
- (茨城・二名) ㉑ 川久保 幸
- ⑳ 吉岡 一男
- ㉒ 榎戸 錦子
- ㉓ 稲川 正夫
- ㉔ 及川 拓文
- ㉕ 小牧 文子
- (新潟・四名) ㉖ 田 扶裕子
- ㉗ 上原 真美
- ㉘ 高橋 浩代
- ㉙ 伊藤 市平
- (群馬・一名) ㉚ 波多野 幸司
- (栃木・二名) ㉛ 横田 馨
- ㉜ 長島 広明
- (三重・一名) ㉝ 熊谷 悦近
- (岐阜・一名) ㉞ 池田 寛信
- (長野・二名) ㉟ 水口 政幸
- ㊱ 水口 美子
- (石川・二名) ㊲ 山本 美喜子
- (富山・二名) ㊳ 田屋 豊作
- ㊴ 江幡 ゆき子
- ㊵ 海老根 カツ子
- ㊶ 色川 巴
- ㊷ 石塚 仁
- ㊸ 河内 雅幸
- ㊹ 柴崎 尚
- (山形・一名) ㊺ 山本 美喜子
- (和歌山・一名) ㊻ 倉沢 功
- (島根・一名) ㊼ 遠藤 孝
- (山口・一名) ㊽ 吉富 克之
- (愛媛・三名) ㊾ 堀本 次男
- ㊿ 内山 優
- (福岡・一名) ㊿ 加藤 尚
- ㊿ 中富 寅男
- (兵庫・二名) ㊿ 足立 優
- (既終身納入者・寄付) ㊿ 山中 種郎

常任委員会報告

- ① 益田 正雄 (大分・一名)
- ② 福田 剛士 (高知・一名)
- ③ 山口・三名 (福岡・三名)
- ④ 田中 儀雄 (長崎・一名)
- ⑤ 段田 恭範 (上尾 由憲)
- ⑥ 江本 透 (岡本 信義)
- ⑦ 香川・三名 (佐野 治人)
- ⑧ 寒川 秀男 (六、〇〇〇)
- ⑨ 林 道大 (長崎・一名)
- ⑩ 藤原 巖 (山本 信一)
- ⑪ 菊池 延次 (熊本・一名)
- ⑫ 本多 忠志 (鹿兒島・一名)
- ⑬ 横田 茂清佐 (宮崎・二名)
- ⑭ 長友 光幸 (鹿兒島・一名)
- ⑮ 原口 春盛 (鹿兒島・一名)
- ⑯ 有留 忠男 (沖繩・三名)
- ⑰ 城間 周宏 (鹿兒島・一名)
- ⑱ 金城 正春 (鹿兒島・一名)
- ⑲ 東長田 隆 (鹿兒島・一名)
- ⑳ 鹿江 琢史 (鹿兒島・一名)

平成七年三月四日(土)の定例会は、創立五十周年記念事業実行委員会合同で開催専ら、寄付応募促進対策について協議し、次に掲げる運動方針を決定した。

また、記念事業実行委員会の運営では、これからも常任委員会と合同で行い、ひたすら目標達成を目指すことで合意が図られた。

懸案の、活動活性化対策としては、特に、従来から重視してきた同期生会の充実及び交流拡大方針を固め、今後は、これを支援助長して、積極的参入を要望することとした。

同期生活動は、仲間同志の身近な友情発信であることから、非常に理解され易く、かつ、対応迅速の効果で、本会活動躍進の原動力として期待がかかります。

項目別協議内容概略

- 1 会員全員に対する応募促進、支援要請運動
 - (1) 六月上旬会報第五六号による啓発 (払込票同封)
 - (2) 十月上旬会報第五七号による啓発
 - (3) 第二十二回大会における決起表明
- 2 都道府県支部に対する要請
 - (1) 支部総会及び支部活動活性化協議 集会等の開催並びに活動参画意識の啓発
 - (2) 所属会員に対する応募促進支援要請 請文書発信 宛て名ラベル、払込票及び切手は、

実行委員会において調達する。

3 各卒期代表者の推薦

※各卒期推薦を原則とするが、周辺に適任者がおりましたら、ご推薦ください。

3 各卒同期生会に対する要請

(1) 同期集会の開催及び連絡協調活動活性化推進

※ 従来から、活発に活動している同期生会は、本会貢献度も高く、活動の底力となっている。

この力を、全卒期に拡大、定着を図って、全体の盛り上がりを目指すものである。

(2) 代表者(仮称)の設置

※ 各卒同期生会とも、集会の度に委員、幹事或いは世話人等を決めて運営しているところであるが、一歩前進して、本会との連絡協調機関として常設を要望するものである。

本部役員は、自分が所属する卒期の代表者推薦で合意はしておりますが、なかなか決まりませんが、各卒期で連絡し合い、適任者を推薦してください。

(3) 同期生に対する応募促進支援要請

七期、十期及び十一期は済。同期生に対する応募促進支援要請文書発信依頼

※ 代表者が決まり次第、支部同様の運動をお願いすることになります。この際、希望により宛て名

ラベル及び切手を手当てします。

4 募金目標額の確認

趣意書に掲げた「一口二万円・会員一人当たり募金目標一口以上」を再確認し、最後まで、初期の方針を貫くことで合意が図られました。

但し、支部及び同期生会等において、応募目安としての目標額「数口以上」の設定については異論がなく、むしろ、意欲的目標額を定めた積極的指導支援運動の展開を要望するところです。

この確認は、応募不振の現状打開対策として、会員から提案があった「卒業期別応募目標額の新設」に対応したものである。

5 募金標語決定

一必ず一口 もう一口

この標語は、群馬県支部長・阿部功様の発案です。記念事業実行委員会の心境として採用し、別掲の「五〇周年記念シンボルマーク」と併せて活用することとする。

※この他にも、名案がありましたらお寄せください。

■会議出席者

- (役職、氏名、卒期、所属の順)
- 会長 福丸 博房⑩ 埼玉
 - 副会長 高橋 隆三⑨ 茨城
 - 副会長兼常任委員長 吉川 昭雄⑪ 茨城

支部・同期の動向

常任委員兼茨城県支部長

岩持 文彦⑦ 茨城

常任委員 稲川 正夫⑬ 茨城

栃木県支部長

川上 忠⑤ 栃木

常任委員 篠原 要一⑩ 栃木

常任委員 関口 義明⑦ 群馬

埼玉県支部長

山崎 彰⑳ 埼玉

常任委員兼東京都支部長

白土 忠雄⑨ 東京

常任委員 住吉 達男⑰ 東京

常任委員兼神奈川県支部長

北村 康祐② 神奈川

常任委員 西村 典夫④ 学園

関 正治④ 学園

砂田 義雄⑤ 学園

坪野 敏美⑦ 学園

山本 英治⑩ 学園

涌井 義郎⑩ 学園

工藤 徹郎⑩ 学園

佐藤 利文⑯ 学園

河内 雅幸⑯ 学園

■常任委員異動

辞任 関 正治④ 学園

三月三十一日付 鯉淵学園を
退職、故郷の長野に帰る。

転居先・〒三九九一七一

長野県東筑摩郡明科町東川手

六七〇一三

(☎〇二六三―六二―三四二三)

学園創立五〇周年記念に寄せる各支部の思いは、当面の課題である募金活動の成功を目指した取り組みに集中、交流の輪を更に広げて、より多くの卒業生によって祝賀行事を盛り上げようと動き出した「近畿交流集会」に集約される。

その中で、各支部ともに、若年会員及び女子会員の動員不振に悩み、その対策に苦慮しているのが実情である。

特に、本部から発表される募金実績並びに会費納入集計表の内容から、若年卒期会員への奮起、激励の強化対策が、強く要望されることである。一案として、総会或いは集会等行事の一切を、卒期毎に仕切る輪番制の実施が話題に上がる。

都道府県支部の総会或いは集会は、新旧一体となつて、それぞれ、特色あふれる行事に育成され、楽しい運営を願望するものである。

栃木県支部懇親会では、先に、粟野町長に当選された湯沢隆夫①先輩の祝賀、激励で盛り上がり、今後の活躍が期待される。

会議概要として、◆開催年月日、◆会場又は開催地、◆代表者、◆出席者又は出席人数、◆本部派遣役職員の順に記載します。

○数字は卒期、括弧同は通信卒期。

富山県支部総会

◆平成七年二月二十四日(金)

◆富山市 富山観光ホテル

◆支部長 竹内 敏俊⑩

◆出席者 十二名

水野 嘉孝⑤ 黒崎 正治⑦

竹嶋 昭三⑦ 永田 清⑩

竹内 敬俊⑩ 深山 一雄⑯

田屋 豊作⑯ 島谷 憲一⑳

山本美喜子㉑ 野崎 弘㉑

沢本 光広㉒ 片口 和美㉒

栃木県支部総会

◆平成七年二月二十五日(土)

◆宇都宮市堀田三丁目「魚よし」

◆支部長 川上 忠⑤

◆出席者 十三名

湯沢 隆夫① 豊田 文雄②

松本 正美④ 川上 忠⑤

篠原 要一⑩ 石塚ケイ子⑫

大竹 勝次⑭ 横田 馨⑭

斉藤 信子⑯ 石川 訓子⑰

手塚千代子⑳ 波多野幸司㉑

小川 泰一㉒

◆派遣員 岩持 文彦⑦(事務局長)

群馬県支部総会

◆平成七年三月十九日(日)

◆前橋市 新前橋駅前

「群馬厚生年金会館」

◆支部長 阿部 功④

(群馬県支部懇親会記念写真)



(写真説明)

前列左から亀井⑳、石田⑭、岩持⑦、阿部④、橋本⑥、清水②、富永⑨、後列左から阿久津⑩、飯塚⑪、飯島③、黒沢⑤、女屋③、高橋②、蜂須賀②、大橋⑤、小林⑱、関口⑦。

◆出席者 十六名

- 清水 実② 飯島金次郎③
- 阿部 功④ 橋本 実⑥
- 関口 義明⑦ 富永 治⑨
- 石田キヨ子⑭ 小林 弘⑱
- 亀井 貞子⑳ 黒沢 賢治㉔
- 蜂須賀信也㉖ 高橋 弘㉘
- 阿久津厚子㉚ 女屋 篤㉜
- 大橋 清人㉞ 飯塚 崇實㉟

◆第七期生会 (第六回)

◆平成七年八月二十二日(火)

二十三日

- ◆栃木県塩谷郡藤原町大原一、四〇〇
- 鬼怒川ホテル「ニュー岡部」
- 〇二八八―七七―二六一

鯉淵学園同窓会近畿

交流会 (仮称) 呼びかけ骨子

平成六年十一月二十六日(土)、京都駅前「法華クラブ京都」において開催された近畿ブロック支部長及び事務局局長等会議は、学園創立五十周年記念事業の一環としての標記交流会の開催を決め、地域同窓生の交流を深めるとともに、学園の発展に寄与することと合意が図られた。

具体的実施計画は、実行委員会を組織して協議のうえで決定、近畿ブロック支部長を通じて同窓生に呼びかける。骨子内容は、次のとおり。

◆集会の時期

本部記念大会の前後とする。従って、十月下旬もしくは十一月下旬とする。

◆集会のもち方

一泊二日が有力。学園の情勢報告、記念講演、懇親会及び観光。

講演では、同窓生自らの「学園の思いで……」とか、「学園を卒業して、いま……」と言った、軽いタッチの発表も考えている。

することとする。

◆実行体制

支部長会その他に、実行委員会を組織することとする。各府県を網羅した二、三回程度の会議を開き、最終案を決定する。

◆会議出席者

- 滋賀県支部長 高田 利通①
- 兵庫県副支部長 近本 恭范⑫
- 事務局長 田中 義治⑬

奈良県支部長 吉谷 澈⑧

井上 薫⑩

和歌山県支部長 早田 仁①

事務局長 松浦 義人③

京都府支部長 藤井 文信④

副支部長 正木 明⑫

杉原 精一⑬

(以上十名)

元農村研究会員生らの集い

―三十数年ぶりの再会者も―

去る四月十五・十六、一泊二日の日程で茨城・大洗の「シーサイドホテル」に於いて「元農村研究会」員生等の集いが開催されました。島根の岡本孝夫氏等三十数年ぶりの再会者、又初対面等もあり、夜の更けるのも忘れ楽しいひとときを過ごすことができました。

同窓生諸氏には、この「農村研究会」なるもの、ご存知ない方が多いと思えますので簡単に紹介しておきますと、三十数年前、十四期生の浅田昌男氏(北海道出身)、大竹勝次氏(栃木出身)等が中心となり「農村社会の実態や問題点」等の調査研究を行うことを目的にスタートした同志会的存在の組織でした。週一回の集会をもち、研究、討論、また時に現地視察など行った内容を記憶しております。

す。余談になりますが、記録に残る実績をあげたとの話は残念ながら聞くことがありませんでした。

四年前、三十数年ぶりに再度、浅田、大竹両氏の呼びかけて、この「元農村研究会」員生等の集いが開催されるようになりまして。この開催こそが最大の業績と言われるかもしれません。

茨城県よりスタートし、秋田、岩手、そして今回又茨城、平成八年には宮城開催と決定され、毎年四月、春風、芽ぶきと共に各地より参集します。三十数年ぶりの岡本、初対面の東京の青木、土方氏等、又、御夫人連れの参加者も多く、賑やかな集いとなりました。御夫人方の多くは、主人又、学生時代の学生生活の断片を垣間聞き関心されたり、見直したり

◆開催経費

参加者の負担によって賄うこととする。主なる支出科目は、会場費、懇親会費、宿泊費、バス代、通信費及び事務費等。

◆事務

開催地を本部とし、各府県までの事務を担当する。各府県支部は、管内同窓生への連絡及び参加者取りまとめ等の事務を担当



前列向かって左より板垣常雄（茨城）、浅田昌男（茨城）、
深沢慶吉（秋田）同夫人、岩渕斉夫人、遠藤弘司夫人、
青木久良子（東京）、小嶋宏夫人
後列向かって左より岡本孝夫（島根）、大竹勝次（栃木）、
岩渕斉（岩手）、遠藤弘司（宮城）、土方貞信（東京）、
益子駿一（茨城）、加藤謙次（岩手）、小嶋宏（秋田）、
菊池（秋田出身・現大洗町議）

といった具合。参加諸氏の自己紹介、歩んできた道のり等の紹介、そして、定年退職されたり、あるいは、数年後退職といった人達などいろいろな話題で盛り上がり、夜の更けるのも忘れて楽しいひとときを過ごすことができました。

十六日は学園に廻り、西村先生の案内で変貌をとげている学園を見学し、又、久方ぶりに昔とかわらない方式の学生食堂での食事を学生と共にとりました。西村先生にはお世話になり感謝申し上げます。

最後になりますが、五〇周年記念事業の寄付依頼の話も秋田の深沢氏より聞き、又この文中に「同窓生諸氏」の協力を願う様書くことを依頼されました。又、この集会も「鯉淵学園農村研究会友の会」と名前が決まり、同窓生諸氏の中で参加希望される方はどなたでも気がるに参加されることを記して終わります。

十四期・茨城 益子 駿一



勝沼のワインおいしいよ!!
(7200ml) 2本から発送します。
1.8ℓ

たかの
代表取締役 高埜 一明 (第25期生)

ぶどうも全国発送します
山梨県東山梨郡勝沼町小佐手1735
きんじょう
錦城 葡萄酒株式会社

会社 TEL 0533-44-1567
FAX 0533-44-1564
自宅 TEL 0533-44-0513 FAX兼用

同窓会の皆さまへのお願

「学園が過去に印刷した古い資料及び古い写真をご提供下さい」
鯉淵学園創立五〇年と新図書館建設を記念し、学園が過去に印刷した各種資料及び学園の各種写真を取集し、図書館に永久保存したいと考えております。その中で特に珍しい資料や写真は十一月四日の記念式典の新図書館の公開時に展示後保存する予定です。特に古い資料や写真

をお持ちの方は、ぜひご提供下さいませようようお願い申し上げます。

送付先

〒三一九一〇三

茨城県茨城郡内原町鯉淵

五九六五

鯉淵学園 図書館

図書委員会

土崎 常男